

「現代の神話」についてのコーパス文体論的意味分析 —*Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage* と *The Great Gatsby* を題材に—*

瀬 良 晴 子

1. はじめに

アリストテレスは『詩学』¹第四章で「再現(模倣)することは、子供のころから人間にそなわった自然な傾向である。しかも人間は、もっとも再現を好み再現によって最初にものを学ぶという点で、他の動物と異なる」と述べている。再現とは物語やさまざまなストーリーの根幹である。同書第一章に書かれている「筋」について、訳注²では「筋」は、ミュートス(mythos)の訳。ミュートスという語は一般に、言葉、演説、物語、作り話、伝説、神話などを意味する」と説明している。確かに私たちの日常生活には、文学作品ばかりでなく、ちょっとしたエピソードから神話まで、「再現」による長短のミュートスが満ちあふれている。

海外にも多くの読者を持つ村上春樹氏は、しばしば「神話」について言及している³。いくつかの「現代の神話」とも言える物語を語っている村上氏であるが、本論ではその最新作『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』の英語訳 *Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage* (以下、*Colorless Tsukuru Tazaki* と略す)と、F. Scott Fitzgerald作 *The Great Gatsby* とを現代の神話の例として題材に取り上げ、コーパス文体論的手法を用いて意味分析を行う。*The Great Gatsby* はアメリカの高校のリーディングリストの1冊であり「アメリカン・ドリーム」の物語として長く読み継がれていることなどから、「現代の神話」と呼べるのではないかと考えた。

本論の第1の目的は現代の神話と言える上の2作品において、「感情」を表す表現がいかに使われているかを探ることである。物語、たとえば歴史小説では歴史教科書とは異なり、出来事と年代だけでなく歴史上の人物が描かれ、読者は人物たちに同情したり共感し

* 本稿の分析結果の一部は、PALA (Poetics and Linguistics Association) 2016 口頭発表(2016年7月、於イタリア・カリアリ大学)「Depictions of Emotions in Haruki Murakami's *Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage*: A semantic analysis」において報告した。

¹ アリストテレス『詩学』(1997/2001), pp.27-28.

² アリストテレス『詩学』第一章訳注(3), p.111.

³ たとえば2015年1月15日から5月13日まで期間限定で運営されていたウェブサイト「村上さんのところ」(<http://www.welluneeednt.com/>)などで何回か詳しく言及している。

たりと、感情的に関与するものである。そのため意味分析にあたっては、まず感情の意味カテゴリーに注目する。

本論の第2の目的は物語全体の意味カテゴリーを概観し、それらが読者や批評家の感想や解釈に、いかに関わっているかを探ることである。感情以外の要素も作品において重要な働きをしているはずであり、意味カテゴリー全体を調べる必要がある。

分析にあたって村上作品の翻訳を用いている理由は、1)他の言語の作品とも比較すること、2)使用する分析ソフトが英文用のものであること、3)村上氏は世界的に読者を持ち、それぞれの言語、特に英語で多く読まれていることからである。もちろん、翻訳に際して、原作と異なるニュアンスが生じている可能性はある。しかし、名作と言われる文学作品では、さまざまな国の読者はそれぞれの言語で読んでいても、通常はその解釈についても共有できる。

2. 分析方法

意味分析にはウェブ上で用いるコーパス分析・比較ツールWmatrix⁴を用いた。英国Lancaster大学のPaul Raysonによって開発されたプログラムで、使い方はウェブページに詳しく説明がある。語、品詞、意味の3レベルでテキストを分析したり、Wmatrixに備わっているBNC Samplerのテキストや自分でアップロードしたテキストと比較したりすることができる。本論では意味のレベルの分析と比較を用いた。*Colorless Tsukuru Tazaki*のテキストはスキャナーで読み取り、文字認識ソフトでテキスト化し、原文と照らし合わせ手作業で確認した。*The Great Gatsby*はThe University of Adelaideのテキストアーカイブ *eBooks@Adelaide*⁵ から入手した。

Wmatrixの意味分析にはUSAS semantic tagger⁶ が用いられている。USAS (UCREL Semantic Analysis System: UCRELはUniversity Centre for Computer Corpus Research on Language)は、表1に示す21の主要カテゴリーがあり、さらに232に下位分類される。またWmatrixでは、比較のための統計指標として the log-likelihood statistic が用いられている。以下、LLと省略する。統計的に有意であるためには、この数値が7以上であることが必要である⁷。

⁴ Wmatrixの詳細な情報については、<http://ucrellancs.ac.uk/wmatrix/> を参照。

⁵ *eBooks@Adelaide* (<https://ebooks.adelaide.edu.au/>)。

⁶ USASについての詳細は、<http://ucrel.lanc.ac.uk/usas/> を参照。

⁷ Introduction to Wmatrix (<http://ucrellancs.ac.uk/wmatrix/index.html#screen>)によると “To be statistically significant you should look at items with a LL value over about 7, since 6.63 is the cut-off for 99% confidence of significance” とある。

表 1 USAS Tagset 主カテゴリー

A general and abstract terms	B the body and the individual	C arts and crafts	E emotion
F food and farming	G government and public	H architecture, housing and the home	I money and commerce in industry
K entertainment, sports and games	L life and living things	M movement, location, travel and transport	N numbers and measurement
O substances, materials, objects and equipment	P education	Q language and communication	S social actions, states and processes
T Time	W world and environment	X psychological actions, states and processes	Y science and technology
Z names and grammar			

3. 感情表現

3.1 *Oedipus the King*における感情表現

二つの作品を調べる前に、まずギリシアの神話である *Oedipus the King*⁸（英訳）の分析例を見ておこう。そのストーリーからは多くの感情表現が含まれることが予想される。表 2 は Wmatrix に備わっている基準コーパス BNC Sampler Written Imaginative (drama, poetry, prose fiction からなる 222,541 語のコーパス、以下 BNC と略す) と *Oedipus the King* とを、感情の意味カテゴリー (E) に関して比較した結果である。E の下位カテゴリーである E 5 - (Fear/shock; fear 19, dread 16, horror (s) 6 などの語を含む), E4.1 - (Sad; woe (s) 13, alas 5, misery 4, grievous 4, sorrow 3 など), E 3 - (Violent/Angry; accursed 4, wrath 3, rage 2 など) の意味カテゴリーに属する語が多く使われていることは予想通りであろう。表中の「+」は BNC と比べて *Oedipus the King* に多く含まれていること、「-」は少ないことを示す。つまり、古代の神話の一つ *Oedipus the King* では、現代の文学作品の基準となるコーパスと比較して、感情表現が多く用いられていることが分かった。また、それらの感情はストーリーから当然予想される性質の感情であった。

⁸ eBooks@Adelaide に収録されているテキストを利用した。F. Storr 訳。(https://ebooks.adelaide.edu.au/s/sophocles/s5o/index.html).

表2 *Oedipus the King*とBNC Sampler Written Imaginativeとの感情のカテゴリーの比較

	<i>Oedipus the King</i>		BNC SWI				
	数	%	数	%		LL	
E 5 -	58	0.49	340	0.15	+	51.23	Fear/shock
E4.1-	72	0.61	490	0.22	+	50.68	Sad
E4.1+	19	0.16	825	0.37	-	17.13	Happy
E 3 -	47	0.40	477	0.21	+	13.87	Violent/Angry

3.2 *Colorless Tsukuru Tazaki* における感情表現

多崎つくるは現在36歳である。しかし、物語は大学2年の7月から翌年の1月まで、ほとんど死ぬことだけを考えて生きていた、という書き出しで始まる。つくるは高校生の時に、彼を含め男性3人、女性2人の非常に仲の良い5人グループの一員であった。彼以外の4人は名字に色彩を表す語を持っていた。大学2年の時、突然何の説明もなく他の4人から絶縁を申し渡される。しかし、つくるは自ら命を絶つことはなく希望を生かした仕事につき、表面的には普通の生活を送っている。このように内面に深い傷を持つ主人公についての語りでは驚き、悲しみなどの感情表現が多く見られるのではないかと予想される。しかし、*Colorless Tsukuru Tazaki* の場合は、表3に示したように、感情のカテゴリーEの下位カテゴリーでは、E3 (Calm) がやや多いだけである。この下位カテゴリーに含まれる語はgentle 14, calm 10, relaxed 8 などである。Restも19例含まれるが、「休息する」という意味の他に、「残り」という別の分類に入るべき例も含まれており、それらを差し引くと、この作品では、感情を示す語は非常に少ないと言える。

表3 *Colorless Tsukuru Tazaki*とBNC Sampler Written Imaginativeとの感情のカテゴリーの比較

	<i>Colorless Tsukuru Tazaki</i>		BNC SWI				
	数	%	数	%		LL	
E5-	49	0.06	340	0.15	-	47.88	Fear/shock
E4.1-	91	0.11	490	0.22	-	42.55	Sad
E3-	88	0.11	477	0.21	-	42.06	Violent/Angry
E4.1+	186	0.23	825	0.37	-	41.34	Happy
E6-	85	0.10	333	0.15	-	10.07	Worry
E5+	6	0.01	52	0.02	-	9.89	Bravery
E2-	24	0.03	124	0.06	-	9.74	Dislike
E3+	105	0.13	202	0.09	+	7.63	Calm

3.3 *The Great Gatsby*における感情表現

The Great Gatsby においても感情を表す語はあまり多く見られない。表4に示したように、E4.1+++ (Happy; 含まれる語はthrilling 5, ecstatic 3, ecstatically 1 など)とLL値が低く統計的に有意とは言えないものの、E4.1++ (Happy; 含まれる語はrupture, ecstasy, happier, exultation各1)がBNCと比べて多いくらいである。ストーリーはよく知られているので省力するが、happyな物語という印象を持つ読者は少ないであろう。ここに示されたHappyのカテゴリーに属する感情を表す語群は穏やかな幸せというより、高揚した落ち着きのない幸せを表しており、この物語の雰囲気伝えるものと言える。

表4 *The Great Gatsby*とBNC Sampler Written Imaginativeとの感情のカテゴリーの比較

	<i>The Great Gatsby</i>		BNC SWI			LL	
	数	%	数	%			
E4.1+++	9	0.02	4	0.00	+	17.04	Happy
E4.1+	123	0.26	825	0.37	-	13.41	Happy
E4.1++	4	0.01	3	0.00	+	5.61	Happy

3.4 両作品における感情表現

Colorless Tsukuru Tazaki では、心に深い傷を負ってはいるが、それを秘めて表面上は普通の生活を送っている主人公自身が語り手であり、*The Great Gatsby* では傍観者的なNickという人物が語り手であるが、いずれも読む者の感情をかき立てるストーリーである。しかし、感情の意味カテゴリーを直接表す語は、いずれの作品においても非常に少なく、二つの作品はその点では共通のスタイルで語られており、古代の神話*Oedipus the King*とは、感情の表現のしかたにおいて異なっている。

4. 二つの作品の意味カテゴリーの比較

4.1 特徴的な意味カテゴリーの分析 Key concepts analysis

次に二つの作品の意味カテゴリーを全般的に比較してみよう。上記3の感情表現の分析のように、それぞれをBNCと比べて、その分析結果を比較することも可能である。しかし、何が文学作品の「基準」となるコーパスであるかを決めるのは容易ではないので、ここでは *Colorless Tsukuru Tazaki* と *The Great Gatsby* とを直接比較する。

下の図1はWmatrixを用いて、あるテキストをもう一つのテキストと比較した時に提示されるもので Key domain cloud と呼ばれている。比較の対象とするテキストに比べて、元となるテキストに統計的に有意な(LL値6.63以上)項目が示されるのであるが、統計的により数の多いものは、より大きな字で表示されている。図1は *The Great Gatsby* と比較

して *Colorless Tsukuru Tazaki* に統計的に多く用いられている意味カテゴリーの場合である。もともとは表5のように詳細な数値が算出される。ここでは10位までをあげているが、実際の表は222位まで続いている。List 1と01は *Colorless Tsukuru Tazaki* をList 2と02は *The Great Gatsby* を指している。また表の1行目のList 1をクリックすると *Colorless Tsukuru Tazaki* においてこの意味カテゴリーP 1 (Education in general) に含まれる語が表示され、さらにコンコダンスにより文脈も確認できるなど、各カテゴリーに含まれる語や文脈を、一語ずつ詳細に検討することができる。

Able/intelligent **Alive** **Cause&Effect/Connection** **Change** **Comparing:_Different**
Comparing:_Usual **Comparing:_Similar** **Degree:_Boosters** **Detailed** **Difficult** **Easy**
Education_in_general **Evaluation:_Authentic** **Evaluation:_Accurate**
Existing **Frequent** **General_actions/_making**
Generally_kinds,_groups,_examples **Getting_and_possession** **If**
Information_technology_and_computing **Likely** **Mental_actions_and_process**
Mental_object:_Conceptual_object **Money:_Debts** **Negative** **Not_part_of_a_group** **Paper_documents_and_writing** **People**
Personal_relationship:_General **Probability** **Professional** **Recorded_sound** **Science_and_technology_in_genera**
Sound:_Quiet **Sports_and_games_generally** **Strong_obligation_or_necessity** **Thought,_belief** **Time**
Time:_Old:_grown-up **Time:_Beginning** **Unmatched** **Using** **Wanted** **Without_clothes**
Work_and_employment:_Generally

図1 *Colorless Tsukuru Tazaki* と *The Great Gatsby* との意味カテゴリー全体の比較 (Key domain cloud) — *Colorless Tsukuru Tazaki* に特徴的なカテゴリー

表5 *Colorless Tsukuru Tazaki* と *The Great Gatsby* との意味カテゴリー全体の比較

	Item	O1	%1	O2	%2	LL	LogRatio	
1	List1 List2 Concordance	P1	504	0.61	31	0.07	278.05	3.20
2	List1 List2 Concordance	Z99	1657	2.25	600	1.29	154.77	0.91
3	List1 List2 Concordance	A7+	1311	1.59	399	0.66	129.61	0.89
4	List1 List2 Concordance	Z6	1559	1.94	560	1.22	96.70	0.67
5	List1 List2 Concordance	A3+	3053	3.70	1272	2.73	66.92	0.44
6	List1 List2 Concordance	A4.1	434	0.53	112	0.24	62.96	1.13
7	List1 List2 Concordance	X9.1+	153	0.19	17	0.04	61.21	2.35
8	List1 List2 Concordance	A3.1	220	0.27	37	0.08	60.70	1.75
9	List1 List2 Concordance	A13.3	666	0.81	226	0.49	47.45	0.74
10	List1 List2 Concordance	11	407	0.49	119	0.26	44.64	0.93

USAS Tagsetによる分析は精度92%とされており⁹、上の分類がすべて正確ということではできない。またすでに見たように、「残り」という意味のrestが休息と同じカテゴリーに分類されたりもしている。そのため、特徴的な意味カテゴリーを調べるときは、実際の

⁹ Wmatrix の Help contents (<http://stig.lancs.ac.uk/cgi-bin/wmatrix3/help.pl>) による。

語や文脈を確かめる必要がある。しかし、筆者のこれまでの研究¹⁰では、作品解釈に重要な意味カテゴリーを示されることが多くあった。今回も、作品に用いられている語を確認しながら、分析を進めることにする。

4.2 *Colorless Tsukuru Tazaki* の特徴的語彙

図1で大きく表示されている Existing は主にbe動詞であり、Unmatched は Tsukuru や Hamamatsu など、日本の地名や人名など Wmatrix で分析できなかった項目である。このような意味カテゴリーは解釈と結びつかない。また Education_in_General は college, school, study などの語で、この作品の舞台の一つではあるが解釈とは結びつかないと考えた。ここに表示された各意味カテゴリー、つまり *Colorless Tsukuru Tazaki* に特徴的な意味カテゴリーに属する語を詳しく検討した結果、この作品の解釈に関係するのではないと思われる項目は次のようなものである。意味カテゴリーに続く[] 内には多く使われている語とその数を付した。

1) 人間関係

Personal_relationship_Generl [friend(s) 126, meet/met 45, relationship(s) 28など]

Not_part_of_a_group [alone 26, personal 15, lonely 8 など]

Belonging_to_a_group [group 59, together 48, community 12, team 10など]

2) 生きること

Alive [life 120, alive 21など]

3) 疑問の気持ち

Likely [might 102, probably 37, possible 14など。助動詞could やwould もここに分類されているので数が多くなっている]

Probability [maybe 109, perhaps 14など]

Cause & Effect/Connection [why 118, reason(s) 52など]

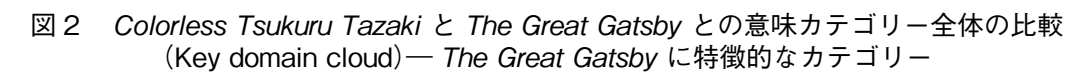
4) 変化

Change [happen(ed) 47, change(d) 50, become/became 49など]

4.3 *The Great Gatsby* の特徴的語彙

次の図2は *Colorless Tsukuru Tazaki* と比較して、*The Great Gatsby* に多く含まれている意味カテゴリーを示している。

¹⁰ 瀬良 (2014)、瀬良 (2016) など。



Time: Momentary [moment (67 例中33例がfor a moment) など]

2) 動き

Speed: Fast [suddenly 40, quickly 15, immediately 15, hurried 12 など]

3) 否定的/高揚した心理

Selfish [supercilious 2, arrogant 2, haughty/haughty 4 など]

Dislike [hate(d) 6, contemptuous(ly) 5 など]

Judgement_of_appearance: Ugly [harsh 4, desolate 4, awful 4 など]

Interested/excited/energetic [curious 12, eagerly 9, excitement 7, impatiently 7 な

Sad [cry/cried 36, sad 8, embarrassment 5 など]

想や解釈にいかに関わっているかを探ること」であった。そのため、さまざまな時代背景や多くの作品間の関係を含めて論じたような文学研究や文学批評の記述でなく、作品自体に関するレビューや読者のコメントなどを、ここでは紹介する。

まず、*Colorless Tsukuru Tazaki* について、読者や批評家のコメントの例をいくつかあげる。*The New York Times* SUNDAY BOOK REVIEW¹¹ はこの作品中に、unfathomable anguish や emotional memories といった表現に見られるように感情を読みとっている。そして作品から “One heart is not connected to another through harmony alone. They are, instead, linked deeply through their wounds. Pain linked to pain, fragility to fragility. There is no silence without a cry of grief, no forgiveness without bloodshed, no acceptance without a passage through acute loss.” (Murakami 2014, p.248)¹² という一節を引用し、“there are moments of epiphany gracefully expressed, especially in regard to how people affect one another” とし、この作品に人間関係における悟り epiphany を感じとっている。またこの書評は “Nothing is completely resolved in life, nothing is perfect. The important thing is to keep living because only by living can you see what happens next” と述べ、この作品から「生きること」の重要性を読みとっている。

INDEPENDENT の Review¹³ もこの作品から “Murakami's richly metaphorical empathy for the lonely and lost” と感情を読みとっている。そして “Bildungsroman track from youthful togetherness through a life-crisis of solitude and wandering, until the terminus of sadder-but-wiser maturity” として、sadder という感情を伴う Bildungsroman と解釈する。*The Atlantic*¹⁴ のレビューも “through a painful reckoning with his demons, a desperate passion for life” と述べ、painful という感情や生に対する熱情を読みとっている。さらに *The New York Times* の Book Review と同じ “One heart is …… through acute loss” を引用している。*LA Times*¹⁵ もやはり “One heart is …… through acute loss” の部分を抜き出している。

次に、*The Great Gatsby* についてのコメントを概観する。この作品は、村上 (1988) によると¹⁶、「いわゆる『アメリカン・ドリーム』という巨大な神話」であり (p.162)、「まさ

¹¹ Smith, P. (2014, August 5). Deep Chords: Haruki Murakami's 'Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage'. Retrieved from https://www.nytimes.com/2014/08/10/books/review/haruki-murakami-colorless-tsukuru-tazaki-and-his-years-of-pilgrimage.html?_r=0

¹² Murakami (2014).

¹³ Tonkin, B. (2014, August 1). Haruki Murakami, *Colorless Tsukuru Tazaki*-book review. Retrieved from <http://www.independent.co.uk/arts-entertainment/books/reviews/colorless-tsukuru-tazaki-and-his-years-of-pilgrimage-by-haruki-murakami-trans-philip-gabriel-book-9640245.htm>

¹⁴ Rich, N. (2014, September). The Mystery of Murakami. Retrieved from <http://www.theatlantic.com/magazine/archive/2014/09/the-mystery-of-murakami/375064/>

¹⁵ Ulin, D. L. (2014, August 8). Haruki Murakami's 'Colorless Tsukuru Tazaki' paints haunting picture. Retrieved from <http://www.latimes.com/books/jacketcopy/la-ca-jc-haruki-murakami-20140810-story.html>

¹⁶ 『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』

にアメリカン・ドリームとその崩壊の物語」であり、「過不足のない要を得た人物描写、ところどころに現れる深い内省、ヴィジュアルで生々しい動感、良質なセンチメンタリズム」(p.163)で描かれている。他の多くの批評もAmerican Dreamについて言及している。この作品は発表当時それほど反響を呼ばず、後に再評価され、以後今日に至るまでアメリカでは読み継がれてきた。

発売当時の1925年、*The New York Times*¹⁷は“With sensitive insight and keen psychological observation, Fitzgerald discloses in these people a meanness of spirit, carelessness and absence of loyalties”と、その精神面・心理面に注目して紹介し、“A curious book, a mystical, glamorous story of today”と当時のアメリカを映し出したものであるとしている。*The New York Times*の死亡記事¹⁸でもFitzgeraldは“captured the essence of a period when flappers and gin and “the beautiful and the damned” were the symbols of the carefree madness of an age”とし、自由気ままで落ち着きのない時代の本質をとらえた作家であるとしている。*Pittsburgh Post-Gazette*¹⁹は、この作品が発売当時は人気がなく再評価されていることについて“‘What sank the novel in 1925 is the source of its success today. “*The Great Gatsby*” challenges the myth of the American Dream …”と、当時の人々が謳歌し肯定していたアメリカン・ドリームに疑問を投げかけるものであったからだと説明する。さらに“The novel anticipates the disillusionment and emptiness found in the standard version of the Dream that became prevalent, if not accepted, in a later era”とこの作品が、精神面・感情面でアメリカン・ドリームの幻想や空虚さを予見していたものであったと指摘している。

6. 考察

Colorless Tsukuru Tazaki では人間関係・生きることに関する語彙、出来事への疑問、それらの解決(変化)に関する語彙を、いわば原材料として物語が織りなされていた。批評の多くでも、この物語は人間関係や生きること、また成長の物語であると解釈されており、ここで見た特徴語彙に強く影響されていると考えられる。

The Great Gatsby についての村上(1988)のコメントにある「ヴィジュアルで生々しい動感」は

¹⁷ Clark, E. (1925, April 19). Scott Fitzgerald Looks Into Middle Age. Retrieved from <http://www.nytimes.com/books/00/12/24/specials/fitzgerald-gatsby.html>

¹⁸ The New York Times. (1940, December 23). Scott Fitzgerald, Author, Dies at 44. Retrieved from <http://www.nytimes.com/learning/general/onthisday/bday/0924.html>

¹⁹ Hoover, B. (2013, May 10). ‘The Great Gatsby’ still challenges myths of American Dream. Retrieved from <http://www.post-gazette.com/ae/movies/2013/05/10/The-Great-Gatsby-still-challenges-myth-of-American-Dream/stories/201305100196>

特徴的語彙から読み取れたあわただしく推移する時間や動きと関連していると思われる。多くの批評はこの作品が時代を映し出しているとするが、落ち着きがなく表面的に華やかなこの時代の印象は特徴的語彙から受ける印象と一致している。

両作品とも感情表現は少なかったが、印象・批評のほとんどは「感情」に言及している。*Colorless Tsukuru Tazaki* の批評のいくつかに共通して引用されていた下の一節には感情表現が見られる。統計的に数は多くなくとも、多くの読み手に印象が深く、その作品の重要なメッセージにかかわる部分に記された感情表現は、読み手の感情に影響を与える可能性がある。

One heart is not connected to another through harmony alone. They are, instead, linked deeply through their wounds. Pain linked to pain, fragility to fragility. There is no silence without a cry of grief, no forgiveness without bloodshed, no acceptance without a passage through acute loss. (p. 248) (下線、筆者)

統計的に多く使われていれば、必ず印象・批評との関係が密接と言うわけではない。たとえば *Colorless Tsukuru Tazaki* では Education に関する語彙は多く用いられているが、批評に影響を与えていない。化学反応ではないので、この語があればこのような印象を受けるとは決めることはできない。当然のことながら文化的背景やその他の条件も解釈に影響を与えていることだろう。しかし、上に見たように、コーパス文体論的意味分析によって抽出された特徴的語彙と、読者や批評のコメントに密接な結びつきが見いだされることから、特徴的な語彙は読み手に影響を与える重要な 1 要素であることは疑いの余地はない。

7. おわりに

村上氏は公式USウェブサイトにおける *Kafka on the Shore* についての Q&A²⁰ で “Myths are the prototypes for all stories” と答えている。私たちは子供のころから、そして大人になっても、また古代から今日に至るまで、神話やストーリーから生きるために必要なさまざまな事柄を学んできた。「現代の神話」がどのような言葉で語られ、読み手がどのように解釈するかを明らかにすることで、私たちにとっての言葉や物語の重要性について、新たな知見を得ることが期待できる。

²⁰ US ウェブサイト HARUKI MURAKAMI の RESOURCES にある QUESTIONS FOR MURAKAMI ABOUT KAFKA ON THE SHORE (http://www.harukimurakami.com/resource_category/q_and_a/questions-for-haruki-murakami-about-kafka-on-the-shore) 参照。

謝辞

本研究はJSPS科研費 15K02610の助成を受けたものである。

参考文献

- アリストテレス『詩学』（松本仁助・岡道男訳）（1997/2001）岩波書店。
- 瀬良晴子（2014）「*Snow Country* における感情表現の描写」『人文論集』 49:71-85 兵庫県立大学。
- 瀬良晴子（2016）「川端康成 *The Master of Go* における感情表現の描写」『人文論集』 51:65-81 兵庫県立大学。
- 村上春樹（1988）『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』ティビーエス・ブリタニカ。
- Murakami, H. trans. Philip Gabriel, (2014) *Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage*, London: Vintage.
- Rayson, P. (2008). From key words to key semantic domains. *International Journal of Corpus Linguistics*. 13:4 pp. 519-549. DOI: 10.1075/ijcl.13.4.06ray.